＜先週の説教から＞

『ヘブライ㉙ー約束してくださった真実な方』　武田真治牧師

創世記 ２２：１～１４　ヘブライ書 １０：１１～２２

いよいよ、８章から続いて来た、古い契約から新しい契約への論証が終わります。最後に触れられている点は、“古い契約”の場合は「すべての祭司は、毎日礼拝を献げるために立ち、決して罪を取り除くことのできない同じいけにえを、繰り返して献げます。」と語られる一方で、“新しい契約”の場合は「しかしキリストは、罪のために唯一のいけにえを献げて、永遠に神の右の座に着き（＝原文では「座る」）、敵どもが御自分の足台となってしまうまで、待ち続けておられる」と述べています。この比較で重要なキーワードは実は“立つ”と“座る”なのです。古い契約の祭司たちが毎日同じいけにえを献げている様子を、ずっと「立っている」と言っています（＝今でもユダヤ教の礼拝は立って行われています）。これは“いつまでも終わることなく献げ物をしている“様子を表しています。まさに罪の赦しを終了することができないでいると。それに対して、イエス様はもう「座っておられる」と。完全な罪の赦しを成し遂げられたから、どっかりと天の「神の右の座に」座っておられるのだと。それが次節「なぜなら、キリストは唯一の献げ物によって、聖なる者とされた人たちを永遠に完全な者となさったから」へと続くのです。

どうでしょうか、考えてみれば、私たちの礼拝はずっと立ったままで行いません。途中で「座り」ます。この点だけみても、古い契約にはないことが分かります。礼拝堂の中で安らかに座って居れるというのは、ユダヤ教では考えられないことでした。イエス様が完全に私たちの罪を贖ってくださったからこそ、もはや自分で一生懸命、罪を取り除くことをしなくてもよいから「座って」おれるのです。この礼拝に於いて「座われる」ことは、イエス様が与えてくださった恵みであり祝福だという点を考えたことがあるでしょうか。

この後の節には「主は言われる。『わたしの律法を彼らの心に置き、思いに書きつけよう。もはや彼らの罪と不法を思い出しはしない。』」とあります。主の赦しが完全であるから私たちは安心して「座る」ことが許されるのです。そして、ここにあるように《主のみ言葉》を私たちひとり一人の“心に置く＝心に刻む”ために「座って」み言葉を聞くのです。それがプロテスタント教会の“礼拝”なのです！

ただ、その天に「座って」居られるイエス様が、やがて「立ち上げる」時が来るのだと言われています。それが先に引用した「敵どもが御自分の足台となってしまうまで、待ち続けておられる」です。これは《最後の審判＝終末》の時を指し、その時が来たら、イエス様は天のみ座から立ち上がり、地上へと“再び来られる＝再臨”のです。そしてこの地上の「敵」をすべて駆逐して足の下に打ちのめされると言われているのです。逆に言えば、それまでは“主の敵＝悪的存在・悪魔”はこの世に存在します。私たちは主の再臨の時までその悪的存在と闘いますが、最後は主が駆逐してくださるのです！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．10月 26日（水）20：00
　　Ⅱ．10月 27日（木）10：30
聖　　書：　ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題：　宗教改革記念日を覚えて
担 当 者：　（水）阿部　（木）小岩
祈りに覚える人：　山中さん　　吉岡さん
ひつじ雲の会　10月25日（火）13：30～

【教勢報告】

主日礼拝　　男　15　　女　54　　計　69
祈祷会　Ⅰ．男6　女2　計8　　Ⅱ．男3 女10　計13
日曜学校　　幼稚科　6　　小中科　5　　計 11

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【次週礼拝】　１０月　３０日（日）
聖　書：　詩　編　２７：１～１４
　　ローマの信徒への手紙　６：５～１１
説　教：　「詩 編㉗―主はわが光、わが救い！」
　　武田 真治 牧師
讃美歌：　３７７(1)、３２(1)、４７６(1と2)、
　　聖歌隊(122)、３７８（1と2)、９２(1)

【次週当番表】

司式:齋藤長老　奏楽:須田 礼拝:坂田長老
献金：松下　松田　受付：東　佐々木
会堂準備：東 阿部 伊藤 伊藤 岩井
看板：岩佐　週報：小草

【次週集会予定】

礼拝前：・求道者会　・聖書輪読会
礼拝後：・聖歌隊練習

６３－４３

週　報

2022年度　教会標語

「礼拝に支えられ、共に生きよう！」

２０２２年　　１０月　２３日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　　武田　真治

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549
http://www.ageo-church.org/